

令和3年度の学校評価

<p>1 集団生活を通して、自ら規律を守る品位・品格ある生徒、明るく思いやりのある生徒を育成する。</p> <p>2 自ら学び、深く考え、広い視野をもって主体的に行動する力を養う。</p> <p>3 系統的かつ計画的なキャリア教育を推進し、生徒自らが在り方生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観、職業観を育成する。</p> <p>4 安全・清潔で落ち着いた学習環境・教育環境を整備し、生徒が安心して学習や学校行事などに取り組むことができるように努める。</p> <p>5 開かれた学校づくりを進め、生徒が地域に信頼され、愛される学校づくりに努める。</p> <p>6 円滑な教育活動が推進できるよう、勤務時間の適正な管理を行い、教職員の健康維持に配慮した取組を推進する。</p>			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	充実したPTA活動と開かれた学校づくり 国際交流活動の推進 広報活動の充実 実践的な防災・減災教育の取組	PTAの学校行事への参加推進 新しい姉妹校の決定 ホームページの管理と外部への情報発信 シェイクアウト訓練を中心に、その場に応じた行動がとれるように実施方法を検討する。	保護者に開かれたPTA活動の実践を継続する。 相互交流を実現可能にする姉妹校を検討し、提携に向けて準備する。 外部への情報発信を積極的に行い、地域や地元中学校から信頼される学校を目指す。 生徒自らが身の安全を確保できるような態度を養う。
教務部	学習指導の充実 教科横断的な連携・研究の実施	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 参観授業、研究授業の実施 教科会での検討 探究活動を軸としたカリキュラムマネジメントの推進	「分かる授業」に加え、「考えさせる授業」を進め、主体的かつ協働的に学ぶ態度を身に付けさせられるようにする。教員相互の授業研究を充実させるために、公開授業週間の活用を工夫する。 新学習指導要領に基づいた教科横断的な教育課程、社会に開かれた教育課程を念頭に研究を進める。
生徒部	品位のある言動や身だしなみの徹底 交通モラル・情報モラル指導の充実 いじめの早期発見と再発防止 生徒主体の学校行事の活性化 愛校心の育成 部活動活動時間の適正化	身だしなみ指導の充実 公共マナーの充実 交通安全指導の充実 外部講師を招きスマホ安全教室を実施する。 いじめアンケート調査の実施 生徒会役員と生徒議会の連携強化 応援委員会、スクールキャラクター「みなみん」の活躍 部活動終了時間の周知・徹底	全職員が率先垂範・連携した指導を継続する。 特活係と連携し、生徒が主体となる活動を検討する。 家庭や地域、関係諸機関と連携した指導の実践 アンケート調査より、いじめの早期発見といじめ問題対策委員会、教育相談委員会と連携し、早期解決、再発防止を図る。 主体的に生徒が学校行事を運営できるように、サポートする。 部活動運営方針に従って、部活動の休養日、活動時間の設定・見直しについて部顧問会で話し合い、適正化に努める。
進路指導部	進路意識の高揚とキャリア教育の推進 新入試制度への対応 感染症流行時における行事運営	進路講演会・進学ガイダンスなどの進路行事の充実 感染症流行時の「高校生の仕事学」「体験的な学習」などの行事について、より効果的な運営、活用を研究する。 各学年団・生活デザイン科・教育コースとの連携の更なる強化	各行事を通して生徒自らが夢を持ち、目標に向けて進路を切り開く態度を養う。 進路行事後のアンケートなどを活用し、より効果的な運営方法や行事の設定時期を研究する。 年間の指導計画に従うとともに、各学年団の実情を踏まえた進路指導を行うよう努める。 Web上でのコンテンツの利用を図る
保健厚生部	健康管理能力の育成 美化活動の一層の充実 教育相談の充実	教職員との連携強化 生徒保健委員会および学校保健委員会の充実 生徒の自発的な清掃指導の充実 年間計画に基づいた定期的な美化活動の実施 学年・保健室との連携と情報の共有 外部機関との連携と有効的な活用	感染症予防に対応した健康観察を実施し、生徒の健康状態を把握し、予防および共通理解に努める。 生徒保健委員会活動における自主的活動の推進 保護者との連携を密にする。 清掃区域の効果的配当と美化基準の検討を行う。 LTや行事の有効活用より美化意識を向上させる。 教育相談委員会を充実させ、問題を抱える生徒の情報を職員で共有する。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
図書研修部	生徒が読書に親しむ場としての学校図書館の内容充実 に努め、生徒の知性・感性・情操を高める。	図書館ディスプレイを工夫し、適切な廃棄を進める。 図書の購入に際し、生徒の要望をくみ上げる。	図書委員会の活動の充実を図る。 ホームルーム担任、教科担任との連携、協力を進める。 研修業務を円滑に行う。 読書活動の支援を積極的に行う。
生活デザイン科	基礎・基本学習の確立 キャリア教育の推進	学習習慣の定着 キャリア教育による社会性育成	授業や各種検定指導を通して、基礎学力の定着を図る。 インターンシップ、外部講師活用など、行事の充実を図り、キャリア教育の推進を図る。
教育コース	広報活動の促進 教育コース進路目標実現に向けた校内体制の構築 課題研究活動に対する校内体制の確立	説明会やHPの充実 多様な選抜種別に対する効果的な指導のあり方の研究 学校全体として計画的に生徒の研究活動支援する仕組みの構築	教育コース3年間の実績や課題を精査しつつ、その魅力を効果的に発信していく。 大学入試への対応や課題研究活動指導では、生徒の希望進路や研究テーマに応じてその分野に詳しい教員を結びつけるなどの橋渡しを教育コースで行い、学校全体として教育コース生徒を指導していく体制を一層拡充する。
3年学年会	進路目標の実現に向けて努力をさせる。	適切な時期と内容を考えて進路情報を提示する。こまめに個人面談を実施する。	学年集会や合同LTなどを活用し、定期的かつ統一的な情報発信に努める。個人面談によって生徒の状況を把握したものを学年団で共有し、学年団全体で生徒の進路実現をサポートする。
2年学年会	学習とその他諸活動を両立させる。	学習記録や模試の結果を生徒に還元して意識を高めさせるとともに、学習以外の諸活動に積極的に取り組めるよう適宜助言を与え、達成感と自信を持たせる。	学年集会等を通じて、学年としての方向性を示し、生徒の向学心や向上心を高める。その一方で、学校生活でのあらゆる場面において個々の生徒に目を配り、きめ細やかな指導・助言を学年全体で行う。
1年学年会	基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着	学習記録や個人面談を活用し、保護者と連携をとりながら基本的な生活習慣の確立及び基礎学力の定着に努める。	将来を見据え、「社会人に必要な力をつける」ことを目標に個々の生徒に対して学年全体できめ細やかな指導をする。また、学校生活の様々な場面において生徒自身に考えさせ、自律的に行動させる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> 1 安全・清潔で落ち着いた学習環境・教育環境を整備し、生徒が学習や学校行事に取り組めるように工夫しているか。 2 キャリア教育を推進するとともに、主体的・体験的な学びや大学等と連携した学びの場を取り入れているか。 3 地元小中学校や保護者・地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを進めているか。 4 いじめ防止基本方針に基づき、いじめの防止、早期発見、再発防止を組織的にやっているか。 5 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともにストレスチェックの結果の活用や面接指導などを通じて教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努めているか。 	

令和2年度の学校評価

令和2年度の重点目標			
1 集団生活を通して、自ら規律を守る品位・品格ある生徒、明るく思いやりのある生徒を育成する。 2 自ら学び、深く考え、広い視野をもって主体的に行動する力を養う。 3 系統的かつ計画的なキャリア教育を推進し、生徒自らが在り方生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観、職業観を育成する。 4 安全・清潔で落ち着いた学習環境・教育環境を整備し、生徒が安心して学習や学校行事などに取り組むことができるように努める。 5 開かれた学校づくりを進め、生徒が地域に信頼され、愛される学校づくりに努める。 6 円滑な教育活動が推進できるよう、勤務時間の適正な管理を行い、教職員の健康維持に配慮した取組を推進する。			
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	充実したPTA活動と開かれた学校づくり 国際交流活動の一層の充実 広報活動の充実 実践的な防災・減災教育の取組み	PTAの学校行事への参加推進 新しい姉妹校の決定 ホームページの管理と外部への情報発信 シェイクアウト訓練を中心に、その場に応じた行動がとれるように実施方法を検討する。	PTA緑化活動等を通して、開かれた学校づくりができるよう努めた。 防災訓練では消火器の扱い方を説明し、より実践的な訓練になるよう工夫した。実際に消火器を使用する訓練も検討したい。 今年度は海外研修が行えなかったが、台湾の方とオンラインによる交流をした。来年度に向けて、国内で実施可能な国際交流活動を充実させたい。
教務部	学習指導の充実	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 参観授業、研究授業の実施 教科会での検討 新教育課程の編成に向けて各教科と連携し、研究、編成を行う。	新教育課程は、予定通り、編成を終えることができた。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は、感染症予防のため対面的、協働的な取組が難しい中ではあったが、教材や方法の工夫等により、前年度より広がりつつある。 来年度は、新教育課程開始の前年となる。カリキュラム・マネジメントの視点も踏まえて、さらなる改善に努めたい。
生徒部	品位のある言動や身だしなみの徹底 交通指導の充実 スマホ指導の充実 いじめの早期発見と再発防止 生徒主体の学校行事の活性化 愛校心の育成 部活動活動時間の適正化	身だしなみ指導の充実 公共マナーの充実 挨拶指導の充実 交通安全指導の充実 外部講師を招き安全教室を実施する。 いじめアンケート調査の実施 生徒会役員と生徒議会の連携強化 応援委員会、スクールキャラクター「みなみん」の活躍 部活動終了時間の周知・徹底	全職員が組織的に協力しあい継続的な指導を実施する。教員のみでなく、保護者、地域、生徒会や生活委員などの生徒が主体になる取り組みを増やしたい。 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外部講師を招いての行事が中止になってしまった。来年度はリモートや放送などを利用の方法を考えていかなければならない。 学校行事を精選した。南高祭では、生徒会執行部や生徒議会での意見を重視した生徒主体の学校行事を行うことができた。今後、応援委員会や「みなみん」の周知をさらに行っていききたい。
進路指導部	進路意識の高揚とキャリア教育の推進 新入試制度への対応	進路講演会・進学ガイダンスなどの進路行事の充実 「高校生の仕事学」「体験的な学習」の充実 各学年団・生活デザイン科・教育コースとの連携の更なる強化	新型コロナウイルスの影響により、「仕事学」および「体験的な学習」については中止した。第1学年については大学のWEB講義を利用した進路研究を行った。今後は同様のコンテンツを効果的に用いる方法を研究していきたい。 新入試および新様式の調査書については学年と連携し対処することができた。
保健厚生部	健康管理能力の育成 美化活動の一層の充実 教育相談の充実	教職員との連携強化 生徒保健委員会および学校保健委員会の充実 生徒の自発的な清掃指導の充実 年間計画に基づいた定期的な美化活動の実施 学年との連携と情報の共有 外部機関との連携と有効的な活用	新型コロナウイルス感染予防のため、職員に情報をできる限りわかりやすく伝え、職員全体で協力することができた。 学年会等で生徒情報の共有や話し合いを行い職員が連携して指導にあたるよう努めた。 スクールカウンセラー等と密に連絡を取り、生徒の相談活動および職員への助言をいただくことで適切な指導につながった。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
図書研修部	生徒が読書に親しむ場としての学校図書館の内容充実 に努め、生徒の知性・感性・情操を高める。	適切な廃棄を進め、図書館ディスプレイを工夫する。 図書の購入に際し、生徒の要望をくみ上げる。	適切な廃棄により、ディスプレイスペースを確保し、面出しして展示した。POPを併置することで、生徒の貸し出しが増加した。 図書委員がクラスの要望をくみ上げてリクエスト用紙に記入し、その結果を図書購入に反映させた。
生活デザイン科	基礎・基本学習の確立 キャリア教育の推進	学習習慣の定着 キャリア教育による社会性育成	基本的な学習習慣を定着させるために、課題の提出を確実に行うこと、提出期限を守ることを習慣づけた。 インターンシップは行うことができなかったが、外部講師を招き、キャリア教育の一助となるように活用した。
教育コース	体験活動に基づく思考力・判断力・表現力および言語能力の育成 教育課程の充実 広報活動の促進 教育コース進路目標実現に向けた校内体制の構築	大学等の外部機関との連携 生徒の主体性を育む体験活動 対話的な授業の展開 言語能力向上のための授業実践や課題の設定 次年度カリキュラムの策定 説明会、HPの充実	支援していただいている関係団体とともに生徒を主体に言語能力を育成しながら授業を実践することができた。教育コースの体験活動や研究活動が大学入試で評価されている反面、校内の指導体制を整えるの必要性を感じた。教育コースを含め学年団と進路指導部との連携を密に図り、学校全体で教育コースの生徒の進路実現に向けてバックアップしていきたいと考える。
3年学年会	進路目標の実現に向けて努力をさせる。	適切な時期と内容を考えた進路情報の提示 きめ細かい個人面談の実施	個人面談を進路選択の要所に各担任が時間を割いて積極的に行った。7限授業日や会議日以外しか十分時間が取れないことが課題である。
2年学年会	学習とその他諸活動を両立させる。	学習記録や模試の結果を生徒に還元して意識を高めさせるとともに、学習以外の諸活動に積極的に取り組めるよう適宜助言を与え、達成感と自信を持たせる。	諸活動を通して、来年度に向けて進路意識の高揚を図ることができた。また、教職員と生徒が一体となって修学旅行を成功に導くことができた。課題としては生徒へのきめ細かい個別指導の機会を増やす必要がある。
1年学年会	基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着	学習記録や個人面談を活用して基本的な生活習慣の確立及び基礎学力の定着に努める。	毎日の学習記録、個人面談を適宜行うことで基本的な生活習慣及び基礎学力の定着に努めた。また、生徒の特性等についての情報を常時共有できるようにし、学年団全体で対応・指導することができた。
総合評価			新型コロナウイルス感染症の影響下で、学習活動や学校行事へ工夫が求められる1年であった。学習面においては、特に休校期間中に100本を超える数の学習支援動画を作成・提供するなど、生徒の学びの保障に努めることができた。学校行事においては、できる限りの対策を講じた上で、学校祭や修学旅行を実施できたことは、保護者からも一定の評価を受けた。さらに、学校祭は、これまで以上の創意工夫や組織的な取組となり今後さらなる期待がもてるものとなった。キャリア教育については、主体的・体験的な学びの多くを削減せざるを得ず、学びの形態も含めて、次年度以降に補っていく必要もある。生活デザイン科・教育コースにおいても同様で、教育活動を制限したり、部分的な実施にとどまってしまったものも多いが、地元の小中学校・特別支援学校や各施設、保護者・地域との連携を維持できるように連絡調整を行った。また、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの防止、早期発見、再発防止を組織的に取り組んできたが、SNS上のトラブルもあり、撲滅までには至っていない。教職員の多忙化解消に向けては、在校時間等の状況記録に基づいて業務の適正化を図るとともに、ストレスチェックの結果の活用などにより、メンタルヘルスの保持に努めた。精神的な理由で療養を必要とする職員はいないが、今後も学校における働き方改革を推進していく。